



日本クマネットワーク主催イベント

クマとの共生のために私たちができること
～クマに出会わない・おそわれない方法を知ろう～



©NPOピッキオ



©財団法人知床財団

2010年12月11日(土)

東京大学 農学部2号館 第一講義室

主催: 日本クマネットワーク

協力: NPOピッキオ、財団法人知床財団

後援: 地球環境基金

クマとの共生のために私たちができること ～クマに出会わない・おそわれない方法を知ろう～



開催趣旨：

今年は各地でクマ出没情報が報道されていますが、クマ生息地ではない都市近郊に住んでいる方々にとっては、あまり実感がないかもしれません。けれども奥多摩や日光、尾瀬など、私たちがハイキングや登山に訪れる場所はクマの生息地であることも多く、クマと遭遇する可能性もゼロではありません。

クマと出会った場合、クマは必ず人を襲ってくる訳ではありませんが、誤った対応をとると、深刻な事故につながります。クマによる人身事故が発生すると、襲われた人は大きなダメージを受け、襲ったクマは駆除されることが多く、人にとってもクマにとっても不幸な結果となってしまいます。

今回のイベントでは、クマの生息状況やクマの特性、人身事故事例、クマとの事故を避ける方法、クマに出会った時の対処法についてクマの専門家が紹介します。

クマの生態やクマの対処法を知り、人身事故や不必要な駆除を減らすことを通して、クマと共生できる社会へと一歩進めてみませんか？

プログラム

- 13:00～13:05 開会挨拶**
山崎晃司(日本クマネットワーク代表、茨城県自然博物館)
- 13:05～13:20 1. こんなところにもクマがすんでいる ～国内や関東のクマの生息状況～**
山崎晃司(日本クマネットワーク代表、茨城県自然博物館)
- 13:20～14:00 2. クマってどんな生きもの？ ～クマトランクキットを使った子供向けプログラムの実演～**
JBN普及啓発事業チーム:西澤次訓、坪田あゆみ、坪田敏男
- 14:00～14:40 3. クマとの事故ってあるの？**
1) 関東地区の人身事故の傾向
小池伸介(東京農工大学大学院 農学研究院)
2) 尾瀬国立公園での人身事故
橋本幸彦(日本クマネットワーク 関東地区代表地区委員)
3) 乗鞍岳で起きた人身事故について
中川恒祐(乗鞍クマ人身事故調査プロジェクトチーム 岐阜大学 応用生物科学部)
- 14:40～14:55 休憩**
- 14:55～15:40 4. クマと出会ったときの対処法**
1) クマに出会わない、出会った時の対処法:基本編
玉谷宏夫(NPOピッキオ)
2) 専門家に聞こう:こんなときどうする?これって効くの?
葛西真輔(財団法人知床財団)、玉谷宏夫(NPOピッキオ)
- 15:40～15:45 閉会挨拶**
山崎晃司(日本クマネットワーク代表、茨城県自然博物館)

1. こんなところにもクマがすんでいる ～国内や関東のクマの生息状況～



山崎晃司(日本クマネットワーク代表／茨城県自然博物館)

日本に生活しているクマの仲間は2種類なのはご存じですね？ おさらいですが、北海道にはヒグマが、本州以南にはツキノワグマという、それぞれ別の種が住んでいます。ただしツキノワグマは、九州ではすでに絶滅してしまったかも知れず、また四国でも絶滅の一手前になっています。それでも日本全国で見れば、ヒグマは2,000～4,000頭、ツキノワグマも13,000～30,000頭が生息していると推測されています。また環境省では、1978年と2003年にクマの仲間の分布域について全国規模で調べていますが、ツキノワグマについては分布域が広がっている可能性が示されました。

関東地方（ここでは山梨県も含めてI都7県）では、千葉と茨城を除く各都県にツキノワグマが生活しています。さらに最近になって、この200年ほど姿を消していた茨城県の北部でも、ツキノワグマの姿が見られるようになってきました。I都7県でのツキノワグマの生息頭数は、ざっくりとですが、1,000～1,400頭程度と推定されています（ただし、東京都での推定頭数は含まれていません）。今回のシンポジウムの会場である東京都を例にとると、奥多摩町や檜原村を中心に、青梅市や八王子市もツキノワグマは姿を現しています。

ツキノワグマは、食物が不足するような年には、自分自身の生命を守るために遠くまで食物を探しに出かけるため、地域によってはオスに加えてメスでさえも、100平方キロを越えるような面積を数ヶ月で移動します。さらに最近は、里山の過疎化や高齢化などにより、ツキノワグマの住みやすい環境も地域によっては増えており、私たちがツキノワグマに会いやすい状況になっているようです。

山崎晃司（やまざき こうじ）プロフィール

日本クマネットワーク代表／茨城県自然博物館首席学芸員。

ザンビア共和国国立公園管理局チンゾンゴ研究センターWildlife Biologist、東京都高尾自然科学博物館学芸員を経て、1995年より現在の職場へ。学生の頃はシカ、アフリカではライオン、そして現在はツキノワグマの研究を行っている。オートバイで山道を走り、釣った溪魚を肴にビールを飲むことを無上に愛するが、最近はその時間の捻出が難しく寂しい思いをしている。International Association for Bear Research and Management評議委員、IUCNクマ専門家委員会委員。



2. クマってどんな生きもの？

～クマ・トランクキットを使った子供向けプログラムの実演～



日本クマネットワーク 普及啓発事業チーム

本プログラムは、主に小学校低学年の子どもたちを対象に、クマ・トランクキットを用いた環境教育を提供し、子どもたちにクマをはじめとする野生動物や自然に興味・関心を抱いてもらい、未来のクマ（野生動物）との共生を支える担い手に育てることを目的としています。

クマのことをよく知らないばかりに余計な恐怖心を抱いたり、間違った知識によってクマとの要らぬ遭遇が生じたり、といったことが現実には起こっています。クマについての正しい知識をもち、無用な恐怖を取り除くことがクマとの付き合いの第一歩です。

私たちはそのための授業（トランクレッスン）を提供しています。トランクの中には、頭骨、毛皮、着ぐるみ、ぬいぐるみ（新生子と子グマ大）、足形、糞の模型、クマよけ鈴、クマよけスプレーなど、クマに関するグッズがたくさん詰まっています。

今回は、とくにヒグマとツキノワグマ両方の毛皮、頭骨、ぬいぐるみなどを実際手にしてもらいながら、クマという動物がどんな動物なのか、ツキノワグマとヒグマはどう違う（似ている）のかを理解してもらうことを目標にレッスンをを行います。最後には、クマとどうすればうまくつきあえるのか、その共生のしかたについても学んでもらいたいと思います。ぜひ積極的にご参加ください。

西澤次訓（にしざわ ひでのり）プロフィール

北海道生まれ。高校卒業後に専門学校にて野生動植物の調査、野外ガイド技術を学ぶ。

環境アセス会社、札幌市のヒグマ調査の仕事の傍ら子どもを対象にした環境教育のボランティア活動に専念。札幌市の公園職員等を経て現北海道大学獣医学部野生動物医学教室にて技術補佐員に就く。趣味は上達しない楽器演奏と年に数回の登山。



3. クマとの事故ってあるの？



1) 関東地区の人身事故の傾向

小池伸介(東京農工大学大学院 農学研究院)

関東地区のうち、首都圏近郊に位置する南関東地域でもツキノワグマとの遭遇は毎年のように発生し、そのうち人身事故に至る事例も多くはないものの発生しています。一方、これらの地域の山々には、アプローチの良さなどから、登山などのレクリエーション目的とした多くの入山者がみられます。そういった人々の中には、従来の登山道を利用した登山以外にも、多様な種類のアウトドアを楽しむ方々があります。

そのため、南関東の各地域でのツキノワグマとの人身事故の特徴としては、アウトドア目的で入山される方々に対する人身事故の割合が高いことです。さらに、その中でも沢登り中や、バリエーションルートなどの登山道以外での事故が多いことや、トレイルランやマウンテンバイクによるクロスカンントリー中の事故の発生などが特筆出来ます。

南関東地域の山々には、非常に多くの入山者が存在するものの、ツキノワグマとの人身事故がそれほど多くないといった状況を考えると、これらの事故事例は、クマが人間との遭遇が少ない登山道以外の環境、人間とクマの双方の存在（匂い、音など）が伝わりにくい環境（沢部など）、クマが人間の存在を察知できても、人間との接近までの時間が短い状況では、クマとの接触事故が発生しやすい可能性を示しています。

小池伸介（こいけしんすけ）プロフィール

愛知県名古屋市出身。東京農工大学大学院農学研究院助教。日本クマネットワーク事務局。博士（農学）。

専門は保全生態学、特に植物 - 動物間の相互作用を主に扱っている。現在は、東京都奥多摩、栃木県日光・足尾地域を主な調査地として、ツキノワグマをはじめとする様々な野生動物と食物資源との関係について、フィールドワークを基本とした調査・研究を行っている。趣味は沢登りと野湯巡り。



2) 尾瀬国立公園での人身事故



橋本幸彦(日本クマネットワーク 関東地区代表地区委員)

尾瀬国立公園では過去に2回、東電小屋付近でツキノワグマに人が襲われる事故が起きました。1回目は1999年6月6日午前7時40分頃。夫妻で通行していた登山者が襲われました。被害者は80～100mの位置にクマを発見し、危険を感じて身を潜めていました。そのためクマは気づかずに近づいてきてしまい、約30mまで近づいたとき、妻が騒いだのを夫が制止しようとし、クマと目が合い、逃げ出したところを襲われました。

2回目は2004年6月5日午前8時30分頃。同僚と歩いていた会社員2名がツキノワグマに襲われました。リュックなどで反撃するとクマは退散しました。1人は腕を骨折しました。負傷した2名は東電小屋で応急処置を受け、自力で下山しました。

2回の事故には多くの共通点がありました。まず、事故が発生した場所はほとんど同じだったこと、また時間帯が朝7時～9時頃であったことなどでした。そこで事故が発生した時期に18日間にわたり毎日巡視を行ったところ、この時期には複数のクマが集まり、早朝に川岸に草本類を食べるために出てきて、木道を横切って山沿いに戻るらしいことがわかってきました。

このような調査結果に基づいて対策マニュアルを作成し、それを運営するために尾瀬国立公園ツキノワグマ対策協議会を立ち上げました。協議会は現場で迅速に対応できるよう、ツキノワグマ対策員を任命し、彼らを中心に巡視や啓発・普及活動、状況に応じた判断を行うこととしました。

橋本幸彦 (はしもと ゆきひこ) プロフィール

東京大学大学院農学生命科学研究科にて、堅果類の豊凶がツキノワグマの繁殖に与える影響について研究。自然環境研究センターに就職し、5年間、日本各地でツキノワグマ、ニホンジカ、カモシカ、イノシシなどの野生動物の生息状況調査や保護管理計画立案に携わる。

その後、もっと現場を見なくては、と心機一転、尾瀬国立公園でクマ対策に取り組む。自分の子供が成長するのを見るにつけ、子供のときに自然にふれる機会が重要だとしみじみ思っている。



3) 乗鞍岳で起きた人身事故について



中川恒祐(乗鞍クマ人身事故調査プロジェクトチーム 岐阜大学 応用生物科学部)

平成21年9月19日に乗鞍岳畳平バスターミナルおよびその周辺において、ツキノワグマによる重軽症者10名を出すショッキングな人身事故が起きました。

著名な観光地での国内最大級の事故ということもあり連日多くのメディアで報道され、風評被害による観光産業への悪影響も懸念される事故でもありました。当初の報道では、「事故の起きた高山帯では餌もなく、クマが現れるとは通常では考えられない。」、「ゴミや残飯が誘引したのではないか。」、「周囲の餌環境の悪化が原因ではないか。」、といった出没・事故原因が推測として流されました。

今回のような事故の再発を防ぐには科学的・客観的な原因究明が不可欠ですが、報道の中には「憶測」の域を出ないものも少なくありませんでした。そこで私たちは、事故状況の検証、加害個体の分析、生息環境調査等を含む総合的調査を実施しました。その調査内容についてご紹介いたします。

中川恒祐 (なかがわ こうすけ) プロフィール

茨城県出身。京都大学卒業後、林業関係の仕事で全国を転勤する。学生時代に研究したクマや野生動物のことが忘れられず、獣医の知識と技術を学ぶため岐阜大学獣医学課程に社会人編入の形で入学。今は卒論と国家試験の勉強に格闘する日々。

主な趣味は釣り。ここ数年はアオリイカにはまっている。小型船舶免許を持ち、たまに操縦することも。目標とする人物は松方弘樹。いつかはマグロを・・・。



4. クマと出会ったときの対処法

1) クマに出会わない、出会った時の対処法:基本編



玉谷宏夫(NPOピッキオ)

私がクマを観察したり、追い払ったりする中で経験したことや、人身事故の現場で見たことを思い出しながら、対処法を考えてみました。なお、ここでのクマとは、ツキノワグマを指しています。

(1) ステップ1: クマの生息地にいる、という自覚を持って行動する

- ・クマは「奥山」だけに棲む動物ではない
- ・鈴、ラジオ、クマ撃退スプレーの携行
- ・林の中を走らない
- ・クマを引き寄せてしまうものの管理
- ・しゃがんでいるとクマから見えにくい
- ・犬の散歩中はリードを放さない
- ・五感を研ぎ澄ます

(2) ステップ2: クマがよく利用する場所に注意する

- ・食べ物が豊富
初夏の沢筋、秋の落葉広葉樹林など
- ・移動経路
細く連続している林
- ・滞在場所、潜み場所
やぶ等で見通しが悪い場所、孤立した林
- ・冬眠穴
樹洞、岩穴、根上がり、倒木、コンクリート法面の隙間、別荘の床下、炭焼き窯の跡

(3) ステップ3: クマの気配を感じ取る

- ・近い距離でクマと遭遇すると、こちらに向かってくることがある
- ・クマが出すメッセージを知り、近づかないようにすることが大事
 - ♪カプカプ…口を鳴らす
 - ♪ドンドン、バリバリ
…足を踏み鳴らす、樹皮を擦る
 - ♪ウウエーッ…子グマの声
 - ♪グルグルグルグル
…子グマがミルクを飲む際に出す「笹鳴き」
 - ♪ワンッ、ワンッ、ワンッ
…興奮した際に発する

(4) ステップ4: それでも出会ってしまったら

- ・できるだけクマを刺激しないでその場を去る
- ・走らない
- ・転倒しない
- ・クマよりも高い場所を確保する
- ・クマ撃退スプレーを使用する

(5) 最後に: 事故を起こさないためには個人の努力以外の取り組みも必要

- ・クマ情報の収集・分析・公開
- ・クマを市街地や開けた場所に出させない

玉谷宏夫 (たまたに ひろお) プロフィール

神奈川県生まれ。ピッキオ保全事業部ディレクター。

学生時代は滋賀県や京都府にて、ツキノワグマがスギの樹皮を剥ぐ謎の行動、「クマハギ」の調査に取り組む。謎の解明には至らなかったものの、人間世界の裏側でこんなに立派な野生動物が息づいていることを実感できたことは、街育ちの玉谷に大きな影響を与えた。その後、長野県軽井沢町に漂着し、当町でクマによる被害対策を始めていたピッキオの門を叩き、現在に至る。今後も人と野生動物の境界線上を歩いていきたいと思っている。



2) 専門家に聞こう:こんなときどうする?これって効くの?



コメンテーター:葛西真輔(財団法人知床財団)、玉谷宏夫(NPOピッキオ)

クマ対処法の基礎編は、あまりクマについて知らない人でもできる基本的な方法をお伝えしました。ただし、クマは人と同じように1頭1頭性格が異なります。遭遇した距離などの状況、クマの行動によっても対応を変えたほうが良い場合があります。

ここではさらに細かいクマ対処法や、会場の皆さんからの質問について、クマ対策の専門家がお答えします。

1) クマ対処法についてのよくある質問

- ・クマって人を食べるために襲うの?
- ・リュックを置いてクマの気をそらして逃げてもいいの?
- ・死んだふりって効くの?
- ・クマに出会ったら、クマの目を見たほうがいいのか?見ないほうがいいのか?

2) アウトドア派なら知っておこう:クマ対処法の応用編

- ・クマスプレーの効果的な使い方は?
- ・クマの威嚇行動を知っておこう
- ・シカなどの死骸の近くにいるクマをみたら…
- ・クマがゆっくりと後をつけてきたら…
- ・その他、クマ生息地で気をつけたいこと

*上記の項目は、時間などの都合により変更する場合があります。

葛西真輔(かさいしんすけ)プロフィール

神奈川県生まれ。知床財団 保護管理研究係主任。学生時代は東京都奥多摩でツキノワグマの行動特性について研究。その後、アウトドアメーカー勤務を経て知床へ。

財団でのおもな担当は、野生動物(おもにヒグマ・エゾシカ)に関する対策や普及啓発。野生動物との共存を目指し、クマの追い払いから会議の運営まで雑多な業務をこなす日々を送る。夏はカヤックと釣り、冬は狩猟をたしなむ。



(*玉谷宏夫氏のプロフィールは前ページ参照)



*この活動は、平成22年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けています。